



【学校教育目標】

思いや考えを伝え合い、
主体的に学びに向かう
児童の育成

令和6年7月11日（木） No.17

校長：須藤 美香 Tel:0880-24-0006

7月の生活目標：きれいな学校にしよう

安全第一に～校舎大規模改修・水泳指導～

いよいよ7月20日より大規模改修が始まります。それに伴い、少しずつ業者の車や資材運び、建設事務所設営等準備を始めています。7月8日（月）のきりりタイム（全校朝礼）では、「安全」に関わって4つの話をしました。

- 1 プールの安全・・・体調が悪い、朝ごはんを食べていない、睡眠不足の人は無理をせず水泳を休みましょう。

教職員全体でも、これまで以上に上からの見守りの徹底や児童観察、人数確認、1～2回は必ず休憩をとり水分補給をすること、気温・水温が高く水泳の授業に不適應な状態の場合は、中止もあること等確認をしています。

- 2 工事の安全・・・工事をしているところに入ったりを勝手につついたりしないようにしましょう。

児童の登下校の時間帯での、資材の運搬（トラック搬入）はありません。今後、警備員または、建築関係者が児童の見守りや安全に考慮してくれます。工事期間中は児童玄関のみの出入りとなります。

- 3 自転車小屋・・・工事に伴い、来週から全校（自転車使用児童）の自転車置き場が体育館北側（現在1～3年生用）になります。（1～3年生用と4～6年生用と分けるようにします）

全校の駐輪場所確保のため、東側に設置していた「アルミ缶回収」をしばらくの間お休みします。これまで、持ってきてくださった方には、ご迷惑をおかけします。再開した時には、改めて学校だよりでお知らせします。

- 4 外での遊び・・・気温と湿度が高く「暑さ指数」が3以上の時は、外では遊ばません。教室やホールなど涼しいところで工夫して静かに過ごしましょう。

熱中症予防のための暑さ指数（WBGT）を測定しています。気温35度以上、暑さ指数が3以上の時には運動は原則中止です。長休みと昼休みは、熱中症予防のために児童玄関前にミストを出しています。

<保護者の皆様、地域の皆様へ お知らせ>

- 1、校舎改修工事に伴い、しばらくの間、アルミ缶回収（体育館北側の自転車小屋での回収）はお休みします。
- 2、来週16日（火）より、教職員の駐車場所（全車）が銀杏の木周辺となります。大型のトラック等も入ってくることから、来校の方も銀杏の木の東側への駐車はご遠慮ください。駐車場所が狭くなりご不便をおかけしますがよろしくお願ひします。お迎え等来校の場合も登校時利用している道路側での駐車をおすすめします。

小小・小中連携推進協議会にて

7月1日には、町内40名ほどの教員、教育委員会にお集まりいただき公開授業や講演会等が行われました。また、講師として、國學院大學の杉田洋教授をお迎えして今後の特別活動について、多くのご示唆をいただきました。今年度も四万十町全小中学校が「特別活動を主とした学級運営」～夢・志を育む学級運営のための実践研究～に取り組んでいます。この日、本校では、4年生と6年生が公開授業を行いました。

授業紹介・4年生

青屋先生

【学級活動・1】議題「学級のシンボルマーク（旗）を作ろう」では、「他者を意識しながら、上手に折り合いをつけて話し合いを進める。友達の意見に反応しながら、自分の意見をしっかりと伝えることができる。」を本時のねらいとして、児童主体（司会・記録）により話し合いがなされました。各班が考えた旗のデザインをもとに話し合いが進められ、それぞれの班のよさを旗の中に入れることになりました。「折り合いをつける」こともできました。また、4年生学級通信のタイトル「明日にかがやけ」を入れたいと仁さんが意見を言ってくれたことも素敵でした。旗の完成が楽しみです。



竹田先生

授業紹介・6年生

【学級活動・2】題材「ゲームや電子画面との付き合い方を考えよう」では、「ゲームや電子画面の長時間の使用が、体や心にどのような影響を与えるのかを理解するとともに、自分の使い方の課題を踏まえて、ゲームや電子画面との上手なつきあい方について考え、自分で決めた具体的な個人目標に取り組むことで、自ら節度をもって利用する意識を育て、行動を変えていくことを期待したい。」との思いから本題材について話し合いました。【学級活動・2】は、「現在の自分の課題を見つめ、自己の成長のために、自分に合った具体的な解決方法や目標を**意思決定**し実行することができるよう自己指導能力を育てます。自分の実態を振り返り、健康面の心配も知った上で自分に合った解決策を考えました。学期ごとの「生活リズムチェック」において、毎回全校の課題となっているところです。この学習が、今後の生活に継続していかされることを期待しています。



味元先生



養護教諭：藤宗先生